ウクライナ支援の飲食店

新橋にオープン

「スマチノーゴ」では、ウクライナ料理を味わうだけでなく避難民との交流もできる（8日）

ウクライナの避難民に雇用の場を提供しようと、港区西新橋に7日、ウクライナ料理店が開店した。店名はウクライナ語で「おいしく召し上がれ」を意味する「スマチノーゴ」。避難民が運ぶ料理は、京都の料亭料理人が和食と融合させて開発した新メニューで、日本のだしをきかせたウクライナ料理は、日本人にもなじみやすく評判は上々だ。（福元洋平）

「料理で力に」避難民を雇用

＊和食と融合

「いらっしゃいませ」。オフィス街にある店に入ると、エプロン姿のウクライナ人スタッフが笑顔で迎えてくれる。8日夜、スープ「ボルシチ」を食べた世田谷区の会社員黒川香子さんは「優しい味で、日本人好みね」と舌鼓を打った。

店は、都内在住で俳優業の江副敬子さんが4月に発案した。ウクライナとの縁はなかったが、報道で政府が避難民を受け入れることを知り、何かできないかと考え、思いついたのが、避難民を雇用するウクライナ料理店だった。

ただ、江副さんは料理のプロではない。そこで声をかけたのが知人で「割烹恵比寿」（京都市）の料理人・金谷俊祐さん(43)と田辺昌親さん(44)だ。同店にはウクライナのバレエ団が来店したこともあり、2人は「料理で力になれれば」とメニューの開発を快諾。5～8月にウクライナ料理を食べ歩いたり、避難民に話を聞いたりして勉強を重ねた。新たな店のメニューは、自分たちの得意分野も生かした「ウクライナと和食の融合」がテーマで、「ボルシチ」はカツオだしで、上品なすまし汁のような味わいに仕立て、ニンニクバターを鶏肉で包んで揚げる「キーウ風カツレツ」は、キャベツを散らしたご飯に載せ、しょうゆ味のカツレツ丼にアレンジした。

＊交流の場も

メニューの開発と並行して進めたのがスタッフの募集だ。江副さんが知り合いのウクライナ人通訳を通して、避難民グループのSNSに求人情報を掲載したところ、約20人から反応があり、20～60歳代の8人を採用した。洋裁店の経営や教師など祖国での仕事は様々だ。

東部・ドニプロで洋服店を経営していたイリーナ・スビドランさん(65)は、ミサイルが街に飛来し、警報が鳴るたびに地下室に避難する日々に疲れ、スロバキアに避難。その後、日本にいた長女を頼って4月に来日した。一緒に避難していた幼い孫らはスロバキアに残り、長男らは祖国で地域の防衛を担うなど家族はバラバラになった。スビドランさんは「早く平和な故郷で家族と再会したいが、それまでは日本で仕事をして生活を維持しないといけない。働く場があって助かっている」と話す。

店では避難民と日本人との交流イベントも検討中で、江副さんは「スタッフは言葉も接客もままならないが、温かく見守ってほしい。店を拠点に、新たな就労や支援にもつなげていければ」と意気込んでいる。

問い合わせは同店（03・6811・1501）。

「日本語能力」就職の壁に

厚生労働省によると、8月末現在、国内のウクライナ避難民は1743人にのぼる。避難民からのハローワークへの相談件数がのべ411件に上るなど、就労意欲は高いが、就職は137人にとどまる。就職が進まない背景には、企業が求める日本語能力の高さがあるとみられ、実際に就労しても、荷物の仕分け作業員や飲食店・小売店の従業員など高度な日本語能力を要しない仕事が多いという。

避難民に生活費などを支援している日本財団によると6～7月、避難民260人に「支援が不足しているもの」を聞いたアンケート（複数回答）では、「就職機会、職業訓練」が最多の38・5%を占めている。

カツオだしをきかせたボルシチ（手前）などが人気だ

寄付に協力 お礼の逸品

葛飾・居酒屋「北さん」ウクライナ支援で

葛飾区水元の居酒屋「北さん」が店自慢の「おつまみ」を利用して、ロシアの侵略を受けるウクライナへの支援活動を行った。賛同した多くの客から寄付金が集まり、近く日本赤十字社に寄付する予定だ。考案した店員の北山忠男さん(80)は「下町ならではの人情のおかげ。現地の人の役に立てれば」と話している。

今年2月の侵略直後、北山さんは恐怖におびえるウクライナの人々の様子をニュースで知り、「何か出来ないか」と思い悩んだ。

そこで始めたのが、客から寄付を募り、お礼におつまみを出す取り組み。北山さんが考えたのが、自慢の逸品「焼きサバ」と「卵焼き」のセットだ＝写真＝。青と黄色の取り合わせで、同国の国旗に見立てているという。

多くの常連客らが「素晴らしい」などと協力してくれたといい、今月10日までに延べ100人以上から計約5万円の寄付が集まった。北山さんは「微力かもしれないが、挑戦してよかった。誰もが安心して暮らせる世の中になってほしい」と話した。

英語「話す」導入見直し請願 継続審査

都立高入試で都議会文教委

都立高入試で導入予定の英語のスピーキングテストを巡り、都議会文教委員会は15日夜、導入見直しを求める請願を継続審査とすることを決めた。自民党、公明党は不採択を求めたが、都民ファーストの会、共産党、立憲民主党の賛成多数で決まった。

請願の扱いを巡って各会派の意見が割れて理事会が長引き、午後1時の予定だった委員会の開会は、同6時45分頃にずれ込んだ。同10時半頃、共産が継続審査を求める動議を提出した。

自公の委員は「（導入の）課題はすでに議会で議論されている」などと主張。一方、都ファは、不採択にすべきだとの考えを示しつつ、共産、立民と複数会派が継続審査を求めていることを強調し、「少数意見に留意する」とした。

新宿区長選に 依田氏出馬表明

任期満了に伴う新宿区長選（11月6日告示、13日投開票）に、元区議で行政書士の依田花蓮氏(50)が16日、無所属で立候補すると表明した。記者会見し「性的少数者らが生きやすい新宿を作っていきたい」と述べた。

依田氏は、愛知県豊橋市出身。2019年に新宿区議に初当選し、今年7月の参院選にれいわ新選組の比例で立候補していた。心と体の性が一致しないトランスジェンダーで、36歳の時に男性から女性に性別変更している。依田氏は「区独自のパートナーシップ制度導入などを実現したい」と話した。

新宿区長選を巡っては現職の吉住健一区長(50)が無所属で立候補する意向を明らかにしている。

神津島村長選 あす投開票

神津島村長選は18日に投開票される。前村長の浜川謙夫氏(68)と再選を目指す現職の前田弘氏(67)（自民推薦）がいずれも無所属で立候補している。

立候補者

（届け出順）

浜川 謙夫 68 無元 ① 村議会議員、副村長、村企画財政課長、村産業観光課長▷富士短大▷神津島村

前田 弘 67 無現 ① 村議会議員▷村長▷社会福祉施設長、村企画財政課長▷中野工高▷神津島村

年齢は投票日現在。白抜き数字は当選回数。四角囲みは推薦政党。略歴は、▷現職=元職歴（前職を含む）▷学歴▷出身地の順

旧統一教会関連と接点

新宿区

新宿区は16日、「世界平和統一家庭連合」（旧統一教会）との関連が指摘される日刊紙「世界日報」の寄贈を受けていたと発表した。

旧統一教会の問題を受けて、区は2019年4月～22年8月を対象に、区との関連を調査。区立中央図書館で1999年から毎日、世界日報の寄贈を受けていた。また、関連団体が主催するイベントの後援を2020年に1回、承認していた。

区は今後、旧統一教会や関連団体から寄付や寄贈を受けないほか、関連団体が主催するイベントの後援も認めないなどとする対応方針を明らかにした。

読売光と愛の事業団ホームページ https://www.yomiuri-hikari.or.jp/

都民

都内版編集室 〒100-8055
千代田区大手町1の7の1
読売新聞東京本社内
電話 03(3217)1465・1466
FAX 03(3217)1468
tomin@yomiuri.com
江東支局 電話03(3631)6116
武蔵野支局 電話0422(51)3131
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は 0120-4343-81
【広告】読売Palette 03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

9月18日（日曜日）
旧 8月23日＜赤口＞

■ あすの暦

通日.261
月齢21.8
（正午）

東京標準
満潮 10.52 20.18
干潮 3.45 14.08
（小潮）

日出 5.25
日入 17.45
月出 22.39
月入 13.08

USO放送
ビール4社販売増
こちらも増えました
—ビール腹
（鶏パンダ）

12日現在の選挙人名簿登録者数は1490人。